



学校だより7月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和2年 6月 30日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目 16 番 1

TEL 045(841)6561



マスクとハンカチ

～感染症対策と熱中症対策に取り組みながら～

校長 岡崎 陽子

梅雨の晴れ間には、夏を思わせる強い日差しが照り付け、少し動くだけで汗がにじみ出るようになりました。7月からは、教育委員会の通知を受け「段階的な教育活動における第三期への移行」を開始いたします。給食を再開し、昼休みや清掃、そして、5、6時間目の授業も始まります。学校では、これまで通り“3密”を避けながら、教育活動を進めてまいります。また、給食の実施に当たっては感染症対策やこれまでの手順をあらためて見直し、安全に給食を提供できるようにしていきます。

今、感染症対策と同時に行わなければならない対策がもう一つあります。それは、熱中症対策です。毎朝、子どもたちの登校の様子を見てみると、どの子もマスクを着用しています。「新しい生活様式」が少しずつ浸透し、通常はマスクを着用することが習慣になってきていますが、熱中症のリスクを考えると、外すことも必要になります。子どもたちには、熱中症予防として、状況に応じてマスクを外したり、小まめに水分補給したりするように声を掛けています。マスクの着脱を含め、子どもたちが、自分で自分の体調を管理することができる力を身に付けていけるようにしたいと考えています。

登校してくる子どもたちの中に、ポシェットを身に付けている子を見かけることがあります。中身を聞いてみると、ハンカチとティッシュが入っているということでした。それを聞いて思い出したことがありました。

私が小学1年生のころのことです。学校にポケットの付いていない服を着ていくとき、ゴム紐に母がハンカチをくくり付け、それを肩から斜めに下げて登校していました。家を出る前には、母は決まって私にこう聞きました。

「ハンカチ、チリ紙、忘れずに持った？」

今でも外出したときにうっかりハンカチを忘れると、なんとなく気持ちが落ち着かないのは、忘れ物をしたという意識が強くなるからなのかもしれません。

感染症対策と熱中症対策を同時に行わなければならないこの時期、子どもたちには毎日清潔なハンカチやタオルを持ってくるように呼び掛けています。

学校では、子どもたちは登校するとすぐに手を洗います。休み時間や清掃が終わった後も同様に手を洗います。そして、給食を食べる前はもちろんのこと、食べ終わった後も手を洗うことにしています。有効な感染症対策の一つが手洗いであると言われていました。1日に何回も手を洗いますので、拭くものは複数あったほうがよいと思います。

ちなみに私は、いつもハンカチを2枚持っています。1枚は手拭き用、もう1枚は汗拭き用です。別の言い方をすれば感染症対策用と熱中症対策用といったところでしょうか。

これからは、さらに暑さが増す季節です。保護者・地域の皆様におかれましては、くれぐれもご自愛いただき、これまで同様、子どもたちを温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。